

ビジョン1
「歴史的都市環境」を継承し、
「中心市街地」として倉敷市の
顔となるまち



ビジョン2
「観光とまちづくり」が
共存するまち



ビジョン3
「生活と文化」が溶け合い
皆が幸せな居心地の良いまち



倉敷の中心部には歴史的な都市が残っています。歴史的都市環境には、有形無形のものがあります。コミュニティのこと、商い、暮らしぶり、まちの姿もキーワードとなります。この歴史的都市環境が、倉敷市の顔となるまちをめざします。

- ・歩行者が優先される、歩いて暮らせるエリアの実現
- ・これまで受け継がれてきた歴史的環境を今後も受け継いでいくため、建造物だけでなく対象を広く捉えた新たな歴史的環境の保全制度の創設などによる持続的なしくみづくり
- ・住居系用途地域への変更など、暮らす環境を整える都市計画の実現

観光の中心として伝建地区がありますが、伝建地区にも住民がたくさん住んでいます。その周辺にも暮らしのまちがあります。観光地ですが、「観光まちづくり」だけではない、「観光とまちづくり」が共存するまちをめざします。

- ・文化を体験するために訪れる観光により地元にきちんとお金が落ちる、倉敷型の持続的な地域経済の循環の実現
- ・エリア内の住民が楽しみながら、観光客のおもてなしに参加できる機会があるエリアの実現
- ・近くに住みながらお店をひらく、お店の近くに住むプライドをもつオーナーのいるお店があつまるエリアの実現

倉敷のまちにはこれまで積み重ねられてきた独自の文化があります。「生活と文化」が溶け合うことによって、「誰一人取り残さない」だけでなく、暮らしている人たちが皆が幸せになる（ウェルビーイング）を感じられるまちをめざします。

- ・倉敷の生活と文化、民俗の歴史が正確に把握され、後世に伝える機会やしくみ
- ・子どもや若い世代からまちの良さを体験し、大人になっても日常的に感じられる、人生の長い期間を通して「倉敷の生活と文化」を常に関じられるエリアの実現。
- ・生活やコミュニティをひらき、地域のあらゆる人々が関われる、生きがいを感じられる居心地のよいまちの実現

くらしきになる 未来ビジョン かわらばん

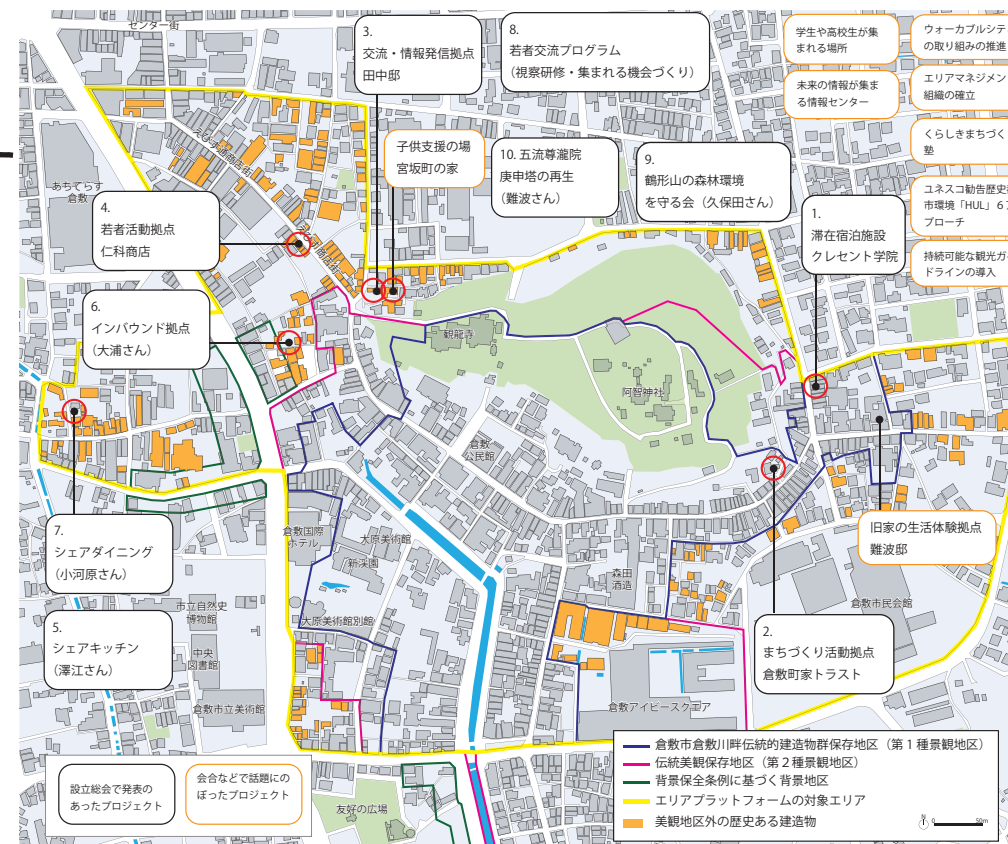
倉敷には、歴史的建造物と自然が形成する美しい風景があります。そして、先人の丁寧な暮らしと美意識に磨かれた風情があります。倉敷美観地区を中心とした歴史的都市環境を 50 年以上まもり育ててきた私たちは、“今”、先人が積み重ね紡いできた“未来”のまちに生きています。過去から受け継いだ歴史や価値を正しく未来へ繋ぎ、発展させるには、目指す方向を示す道しるべが必要です。そこで、3つの将来像と6つのテーマから、まちの未来を語り合い、その結果をビジョンとしてまとめています。あなたの想いもぜひ聞かせてください。

くらしきになるエリアプラットフォーム

下の地図に示すエリアの未来ビジョンを描き、その実現を目指す官民連携組織です(令和5年(2023年)6月設立)。住む場所や年齢、所属を問わず、ここでは全員エリアのことが“気になる”仲間です。また、まちづくりをよく知る国内外の専門家も活動を後押ししてくれます。

これまでの経緯

エリアプラットフォーム設立後は、メンバーの想いを語り合う場として、テーマごとに分かれたミーティングや若者限定のセッション、外部講師による講演会などを定期的で開催しています。あなたも一度遊びに来てみませんか。飛び入り大歓迎です(次回開催日の確認は下の問い合わせ先まで)。



くらしきになる エリアプラットフォームって？

～令和4年にやったこと～

どんなまちにイキみたいです？

集まる

ミーティング開始！

語る

くらしきになるエリアプラットフォーム

令和5年 6/30 設立

連絡・お問い合わせ先
メール：info@kurashiki-machiya-trust.jp
ホームページ：<https://kurashi-ki-ninaru.jp>



令和4～5年度 国土交通省「官民連携まちなか再生推進事業（エリアプラットフォームの構築・未来ビジョン等の策定）」の補助を受けて制作されました



テーマ「磨く」の方針

- ・倉敷独自の文化や習慣をきちんと伝える
- ・伝統行事の再発見
- ・美観地区の周辺の景観を良くする
- ・朝や夜の倉敷の良さを磨き伝える
- ・民俗文化を活用した収益化
- ・地域資源を包括的に把握し管理する
- ・町家の保存と景観保全のあり方について多様なステークホルダー（利害関係者）で議論
- ・倉敷の美意識を見える化



テーマ「創る」の方針

- ・地域住民と観光客の共存
- ・住み続けられる、次世代へつなぐしくみ。若い人が住めるまちにする。
- ・短期間でも住んで働く機会づくり
- ・子どもの遊べる場づくり
- ・歴史文化に触れる機会や場づくり
- ・先端技術を利用したマネジメント体制の構築。専門家との交流、協働。
- ・ウォーカブルシティの推進（歩いて楽しく暮らせる、観光できるまち）
- ・不便さを楽しむ
- ・伝建地区の内側・外側の役割を認識し、使い分ける



テーマ「暮らす」の方針

- ・倉敷に住むイメージを若者に伝える
- ・観光客と住民生活の共存。交流。
- ・暮らしが見えるまちにする。
- ・20～30代が活躍でき暮らせるまちに
- ・子供、学生、若者が関わりやすい機会をつくる。
- ・多様な階層の人が暮らすまちに。
- ・職住一体の家族を増やす
- ・居住に限らず、生活の一部をエリアが担う「暮らし」の実現
- ・中長期滞在者を受け入れ、居住者と来訪者を繋ぐ



テーマ「商う」の方針

- ・地域循環型の商い
- ・倉敷の顔となる、志が高く、物語がある、店主の居る店舗を増やす。
- ・観光客と住民と店主の交流を促す。
- ・住民と商業者間の相互理解を促す。
- ・朝や夜の時間帯を活用する。
- ・ゴミのない美しい環境を維持する。
- ・地域の産業を生かした商いを増やす



テーマ「学ぶ」の方針

- ・高校生、大学生など若い世代が活動できる機会を増やす。
- ・地元・倉敷のこと、暮らしている人の想いを知る機会づくり
- ・本物、実物に触れられる機会づくり
- ・地元の人とつながれる機会をつくる
- ・学びを促進する体制づくり
- ・学びやすい環境づくり
- ・年長者が「当たり前」と思っている情報（習慣、食、光景など）を引き出す
- ・知識を押し付けるのではなく、自分達で気づくヒントをこっそり仕掛ける



テーマ「楽しむ」の方針

- ・倉敷川をきれいにする
- ・倉敷川をみんなが楽しめる川にする
- ・倉敷の朝や夜を楽しめるようにする
- ・（施設や店舗の休みが多い）月曜でも楽しめる情報発信
- ・生活文化を楽しめる機会や場づくり
- ・観光客に限らず生活者、勤務者も楽しむ
- ・多様な人が楽しめる環境をつくる
- ・エリアに関わるハードルは低く。ゲーム要素、食との組み合わせ、遊びなどから